

令和5年度

教職課程

自己点検・評価報告書

大同大学

令和6年7月

大同大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・工学部（機械工学科、機械システム学科、電気電子工学科、建築学科
中・高 数学、工業）
- ・情報学部（情報システム学科 中・高 数学、情報）

大学としての全体評価

大同大学は、令和5年5月1日現在、工学部4学科、情報学部1学科で教職課程の認可を受けている。特に「工業」及び「情報」の教員免許を取得できることから、近隣の工科系の高等学校からの期待も大きいと認識している。そのような背景もあり、本学の卒業生をはじめ、他大学卒業の現役教員などからも本学の科目等履修生制度を利用して免許取得を希望する者が、毎年多数いる状況である。

本学の教職課程は、教職担当教員を中心に、各学科の教員および事務職員が連携して、教職科目の開設とカリキュラム運営をはじめ、教育実習や介護等体験の事前・事後指導、実習校や実習施設等との連絡や調整、教職に関連した情報提供などを行っている。また、教職担当教員の中には、教育現場での実務経験が豊富な教員が配属されていることで、学生の個別相談・面接指導などでは、実際の教育現場の状況や経験を踏まえた実践的な指導を行っている。

今回の自己点検・評価では、本学の教職課程の長所、教職課程をより魅力化するための課題、効果的かつ実践的な課程運用への課題等を再度確認することができた。今後、これらの長所や課題を、本学の教職課程運営に生かすとともに、効果的・効率的な自己点検・評価方法の在り方についても検討を続けていく所存である。

大同大学

学長 渡 邊 慎 一

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	11
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	15
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	15
V	現況基礎データ一覧	16

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：大同大学
- (2) 学部名：工学部、情報学部
- (3) 所在地：愛知県名古屋市南区滝春町 10 番地 3
- (4) 学生数及び教員数

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

学生数：工学部 教職課程履修 152 名／学部全体 2,260 名
 情報学部 教職課程履修 32 名／学部全体 1,332 名

教員数：工学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）148 名／学部全体 304 名
 情報学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）47 名／学部全体 222 名

2 特色

本学は高度経済成長さなかの 1964 年、中部地方の産業界を代表する 31 社の支援により、機械工学科及び電気工学科の 2 学科の工学系単科大学として設立された。以来、増設により工学部の充実を図り、2002 年度に情報学部情報学科を設立し複数学部となった。現在、2 学部で 11 の学科・専攻・コースを擁し、「実学教育」、「実践的工学技術者養成」を教育理念として中部産業界の期待に応えている。

こうした特色を生かし教員養成にも力を入れ、1965 年度に認定を受けた高等学校教諭免許状（工業）の課程に始まり、実践的な工学技術を備えた工業高校教員養成の理念は脈々と受け継がれてきた。現在、工学部の各学科では、工業免許状だけでなく、数学免許状（高等学校、中学校）の認定を受けている。また、情報学部でも同様に情報免許状及び数学免許状（高等学校、中学校）の認定を受けている。そして、愛知・岐阜・三重を中心として本学卒業生が教鞭を執っている。

免許状の種類及び教科	課程をおく学部・学科	
中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学）	工学部	機械工学科、機械システム工学科、 電気電子工学科、建築学科
	情報学部	情報システム学科
高等学校教諭一種免許状（工業）	工学部	機械工学科、機械システム工学科、 電気電子工学科、建築学科
高等学校教諭一種免許状（情報）	情報学部	情報システム学科

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

1 教職課程教育の目的・目標の設定

本学は、「実学教育」「実践的工学技術者養成」という教育理念を受け継ぎ、教職課程の目的・目標を「卒業認定・学位授与の方針」及び「教職課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに教職員に周知している。

【本学の教員養成の目標】

- ①高度な知識と実践的な能力
- ②他者の尊重、愛情、使命感・責任感
- ③広い視野と教養、柔軟な思考力

工学部の教員養成の狙いは、工業高校教員として「ものづくり産業」を下支えできる、優れた技能と責任感を備えた工業高校生を育成できる教員を養成することにある。実践的な工学技術を備えた工業高校教員の養成は、中部産業界の要請にも応えるものであり、この理念は脈々と受け継がれている。現在、数学免許状も取得でき、教育界の要請に応えた複数免許状の取得も可能であるが、中心はあくまでも実践的技術者養成を理念とした工業を主体とした大学としての教員養成である。

情報学部では、コンピュータ技術者の養成を狙いとし、進化する幅広い分野に人材を送り出してきた。そして、高校での必修科目「情報」設置に応えるため、情報免許状の課程を設置したが、この学部での学びの基礎となる数学を重点的に学習することから、数学の免許状も取得可能であり、高校では情報と数学の二つの免許状をもつ教員が望まれることに応えている。

2 教職課程の目的・目標の共有と実施

育成を目指す教師像の実現に向けて、教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施するために、教職課程の関係教職員が、シラバス作成における授業の到達目標や授業内容の共通化を図っている。そして、学生との面談、科目履修状況及び単位修得状況等を通じて、教職課程を履修する学生について、関係教職員が常に把握して指導している。

3 学修成果の可視化

教職課程教育を通して育もうとする学修成果を、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示し可視化を図っている。成績評価基準は各学部の「履修規定」に定めており、個別の科目の評価方法はシラバスに示している。

本学はGPA制度を採用し、学生に履修に対する責任を意識づけるとともに、学生個人が学修成果を客観的に知ることにより学修意欲を高揚させ、学生の学力向上と社会に対する本学学生の「質」の保証となることを目的としている。

さらに、「履修カルテ」を学生自らが作成することにより、教職関連科目の学習到達目標及び学生自身の理解度を確認することができ、教員として身につけるべき知識技能及び態度について可視化している。

〔優れた取組〕

工学部と情報学部で数学の免許状が取得できることは本学の大きな特色であり、例年、

これが理由で本学を志望する受験生が一定数いる。

各学部の協力を受け、卒業研究指導教員が、教育実習生の指導教員として教育実習の事前指導、教育実習校への訪問、事後指導に積極的に関わっている。

「履修カルテ」を学生自らが作成することにより、教職関連科目の学習到達目標及び学生自身の理解度を確認することができ、教員として身につけるべき知識技能及び態度について可視化している。

〔改善の方向性・課題〕

本学の教育及び研究は確実に成果を積み上げ充実・発展し、広い産業から必要とされる人材を育ててきたことにより、産業界からの信頼はとても厚い。それゆえ、教職を目指す学生の人材確保が課題であり、各学部・学科との協力体制を維持・発展させていかなければならない。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・資料1-1-1：学生便覧，工学部，教職課程
- ・資料1-1-2：成績に関するガイド，GPA制度
- ・資料1-1-3：学生便覧，情報学部，教職課程
- ・資料1-1-4：ATTENTION PLEASE 2023，pp.59
- ・資料1-1-5：4年間の学修に向けて，大同大学教職教室
- ・資料1-1-6：教職課程，教職履修カルテ

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

1 教員配置等

本学における教職課程の教員の配置は、文部科学省「教職課程認定基準」に定められた必要専任教員数を充足している。教員の研究実績・業績等に関しては、大学のホームページ「情報公開」で確認できる。

教員・事務職員との協働体制は円滑に進められている。学生の指導に関しても、情報の共有を図り、迅速に対応できるように努めている。

2 全学組織に関して

本学では教職課程の質の向上や教職履修者に対する責任ある指導をするため、全学的な教職指導体制を採っており、「教職課程委員会」を設けている。教職課程委員会の構成員は、教務部長、教務部次長、教養部の教職系の責任者、教養部の教職系及び数学系から各 1 名、工学部の学科・専攻から各 1 名、情報学部の学科から各 1 名、教務室長の計 15 名である。

委員会の審議事項は以下の通りである。

- ①教職課程の設置及び改廃に関すること
- ②教職課程の教育課程及び担当者の編成に関すること
- ③教育実習に関すること
- ④教職課程の教材、設備等に関すること
- ⑤その他教職課程の運営に関すること

教育実習指導については、教職教室と各学部・学科・専攻及び数学教室が連携・協力し実施している。

さらに、2名の専任教員からなる教職教室において、月に2回程度、教職課程運営に関する話し合いや教職履修学生についての情報交換を行い、教職指導体制の強化を図るとともに、連携して新入生へのきめ細かな教職課程ガイダンスや、在学生への履修指導と進路相談、4年次生に対する面談による実習指導と就職指導を行っている。この結果、教職課程履修者は1年次で全学生の約10%であり、うち約3分の1が最終的に教員免許を取得して卒業している。

3 施設・設備の整備

本学の教職課程の教育に使用する通常講義室には、プロジェクタ、書画カメラ、WiFi等が完備され、各種 ICT 機器の活用が可能である。ICT 教育により特化した施設・設備は以下の通りである。

- ・コンピューター演習室 17室
- ・コンピューター自習室 2室
(学生が授業や自習で利用できるパソコン 1,000 台以上)
- ・上記のコンピューター演習室および自習室にモニターディスプレイを設置
(実際の教育現場を想定し、教員側の PC で教室内の全ての PC が管理できる授業の模倣が可能)
- ・2021 年度入学生からパソコンの必携化

本学の情報センターでは、学内・自宅での PC 利用の際のさまざまな疑問や相談への対応、ウィルスに対する情報提供、Microsoft Office 関連の無償利用ソフトウェアの提供・支援を実施している。また、入学時には、情報センター職員による PC 使用ガイダンスが行われ、PC を活用した学習が円滑に開始できるように努めている。

4 授業評価アンケートの活用、FD、SDの取り組み

本学では、FD活動の一環として教育開発・学習支援センターが、学生による授業評価をアンケート形式で実施し、アンケート結果は授業担当者にフィードバックされ、授業方法・授業内容の改善に役立てられている。この授業評価アンケートは、毎期の14週目および15週目に、非常勤講師が担当する授業も含め全ての授業を対象に実施している。また、2018年度より授業評価アンケート結果報告書はWEBで学内に公開している。教職教室では、教職科目に関する授業評価アンケート結果を分析・検討して学習指導の課題の共通認識に取り組んでいる。

また、本学教員（非常勤講師を含む）による授業参観（研究授業）を実施し、その後に開催する授業研究会において「授業内容」や「授業方法」について議論を行っている。議論の題材として、「学生による授業評価アンケート結果報告書」「シラバス」や「成績評価結果」などを用いている。研究授業及び授業研究会の内容は「授業批評」（センター所報）に掲載し学内に公開している。なお、授業研究を円滑に推進するため、全教員の授業の公開を定めた「大同大学授業憲章2001」を制定している。

さらに、年に1回、全学を対象として、授業改善や授業開発に資するテーマを取り上げたFD研修会を開催している。

SD活動については以下の取り組みを実施した。2024年1月に大同学園の全教職員（非常勤講師を含む）を対象に、「生成AIおよびそれを含むサービス事例と、そこに潜むリスク」をテーマとした勉強会を開催した。また、教職員からハラスメント防止に関するテーマを募集し、ハラスメント防止に関する勉強会を実施した。

「学校法人大同学園事務職員の研修に関する実施方針」に基づき、新任職員、若手職員、中堅職員及び管理職員の各階層を対象とした階層別研修を実施した。2023年度の研修の実施状況は、以下のとおりである。

対 象	研修テーマ
管理職員	面談力向上基本研修
	面談力向上フォローアップ研修
若手職員、中堅職員	フィードバック活用研修

※2023年度の新任事務職員の採用は無し。

2024年1月に他大学の事務職員との合同研修として、本学と連携協定を結んでいる日本福祉大学と「大学事務実務に関する情報交換が行える環境づくり」をテーマに、若手の事務職員による事例報告および検討会を実施した。

5 教職課程に関する情報公開

本学のホームページの「情報公開：教職課程に係る情報」において、下記の内容を公開している。

- ①教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画
- ②教員養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに授業科目
- ③教員養成に係る授業科目
- ④教員養成に係る授業科目の授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- ⑤卒業者の教員免許状の取得の状況
- ⑥卒業者の教員への就職の状況
- ⑦教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組

6 教職課程の自己点検及び見直し

本学では、教職課程委員会が中心となり、教職課程がある学部・学科に対して教職課程に関わる最新の情報提供を行い、また本学の課題について検討している。さらに、教職課

程に関わる全ての教員の活字業績を調査している。

〔優れた取組〕

本学の情報センターでは、学内・自宅での PC 利用の際のさまざまな疑問や相談への対応、ウィルスに対する情報提供、Microsoft Office 関連の無償利用ソフトウェアの提供・支援を実施している。また、入学時には、情報センター職員による PC 使用ガイダンスが行われ、PC を活用した学習が円滑に開始できるように努めている。

教育開発・学習支援センターでは、基礎学力が必ずしも十分でない学生や、高校のカリキュラムの都合で基幹科目を履修できなかった学生をサポートしている。入学前には、スクーリングや e-Learning を、また、入学後には、数学・物理・化学・英語の高校までの学習範囲を復習する学習支援を実施しており、2023 年度は 384 名が利用している。

また、同センターは本学の FD 活動の中心を担っており、教職教室の教員がセンター長、あるいは副センター長などの中心的な役割を担当することにより、欠かすことのできない教育学の視点をもった FD 活動を推進している。

〔改善の方向性・課題〕

本学では教職課程委員会が「教職センター」の役割を担っている。今後、さらに実務的な対応の効率化のためにも、「教職センター」への拡充を図る必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・資料 1-2-1：情報センター ハンドブック 2023，大同大学情報センター
- ・資料 1-2-2：教育開発・学習支援センター
- ・資料 1-2-3：学生による授業評価アンケート結果報告，大同大学教育開発・学習支援センター
- ・資料 1-2-4：「授業批評」（教育開発・学習支援センター所報，年に 3 回発行）
- ・資料 1-2-5：大同大学授業憲章 2001
- ・資料 1-2-6：教職課程に係る情報
- ・資料 1-2-7：大同大学情報センター

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

1 学生募集等

高校生に対する大学説明会及びオープンキャンパス等において、本学の「入学者受入れの方針」等を踏まえて、本学の建学の精神、学部・学科の特色等を紹介し、本学の教職課程について説明している。高校生に配布する大学案内パンフレットである『キャンパスガイド』の中に教職課程の説明及び教員になった卒業生を掲載している。

新入生に対しては、入学当初の新入生ガイダンスにおいて、教職教室の教員が教職課程の説明をしている。

2 教職課程で学ぶ学生の基準の設定

入学時の教職課程のガイダンス、及び科目履修登録変更期間の「教職論」の最初の2回の授業で、本学の教職課程の在り方及び教員としての資質について、「4年間の学修について」を基に説明し、教職課程の履修をする判断材料を学生に提供している。そして、「教職論」の授業では、教員の仕事、生き方、教職の課題等について実例を基に学生たちに考えさせ、1年生後期に教職課程の履修を継続するか否かを判断させている。

2年生後期に、3年生での介護等体験に参加することについて、学生の単位修得状況等を中心にして個別面談をして、介護等体験の参加及び教職課程の履修の継続について学生に考えさせている。

教育実習履修については、後述の基準項目3-1-7に示す基準を設定しており、3年生後期に、教職課程の履修を継続するか否かを学生に考えさせている。

3 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえた適切な規模の学生の受け入れ

本学の教職課程の履修受入れは、教員免許種ごとの定員を定めずに学生の希望を受け入れている。過去10年間余を検証しても、1年生の教職課程履修者は100名程であるが、学年を経るごとに減少し4年生では30名前後であり、現在の教職課程の教員で対応可能な人数である。

4 「履修カルテ」の活用

1年次6月に「教職論」の授業で履修カルテの書き方等を説明し、その後、各期終了時に書き込みを指示し、学年末にTeamsで提出させて確認している。そして、学生との個別面談時に利用している。

〔優れた取組〕

本学では教職課程の履修者の定数を教員免許種ごとに定めていないので、学生は自分の希望に応じて教職課程を履修することが可能であり、複数の免許状の取得（例：数学と工業、数学と情報）を目指す者もいる。

〔改善の方向性・課題〕

1年次に教職課程を履修する学生は100名近くに及ぶこともあるが、学年が進むにつれ減少し、最終的に免許状を取得する学生は、例年30名前後である。近年、民間企業等への就職が好調な社会環境であり、教員志望から進路変更する学生も多い。今後、授業や個別面談、さらには同窓会と連携した教職に就いている卒業生との交流等を通じて、教員という職業の魅力や教員免許状取得のメリット等をさらに伝えていく必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・資料2-1-1：4年間の学修に向けて，大同大学教職教室
- ・資料2-1-2：キャンパスガイド2024，大同大学
- ・資料2-1-3：教育実習指導（2023），大同大学教職教室
- ・資料2-1-4：教育実習の手引き，大同大学教職課程

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

1 学生の意欲・適性の把握

教職履修者に対して、以下に示す時期に作文の提出、アンケート調査、及び個別面談等を課し、個々の学生の教職に就こうとする意欲・適性の把握に努めている。

①作文課題

1年生 4月 教員の魅力について

2年生 10月 教員の課題について

②教職に関するアンケート調査

1年生 4月 取得希望免許について

1年生 6月 教員希望・教員の仕事・待遇・社会的評価等について

2年生 9月 教員希望について

3年生 11月 教員採用試験について

③個別面談

1年生 10～12月

2年生 2～3月

3年生 1～2月

4年生 適宜

④その他

3年生 8月・4年生 8月 教育実習報告会

2 組織的なキャリア支援

本学にはキャリアセンターがあり、各学部・学科の指導教員と連携しながら学生の指導に取り組んでいる。「自分への『気づき』」を促進するため、1年生前期から2年生後期まで「就職力アップセミナー」を開催し、「自己分析・自己理解」、「社会で求められる力」、「職業観」を学ぶ過程としている。3年生では、「就職ガイダンス」を開催し、就職活動に向けた実践的なテクニックを学ぶ機会を設けている。教員採用試験を受験する学生は、キャリアセンター主催の面接指導、自己アピール文の書き方指導を受け、さらに公務員試験対策講座（3年8月～3月）で一般教養試験と小論文の対策をすることができる。さらに、教職教室では、基準項目2-2-4で後述する教員採用試験講座を開催しており、本学全体として、学生のニーズに基づいたキャリア支援を組織的に行っている。

3 教職に就くための情報の提供

教職に関する情報は、学内の掲示板、教務室で学生が閲覧できる私立学校の教員採用情報及び教職課程を履修する学生が登録している Teams により学生に提供している。各教育委員会の採用試験の情報、教職に関するボランティア活動の紹介、採用試験対策の模擬試験等の情報が主である。

4 教員免許状取得件数・教員就職率を高める工夫

本学の教職教室では、3年生の12月から教員採用試験講座を開始し、4年生の8月まで続けている。3年生の間は月に2回程度であるが、4年生ではほぼ毎週、講座を開催している。内容は教職教養の問題演習、小論文指導及び面接指導である。

5 教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携

通常の授業だけでは得られない経験や知見を積み、キャリア支援を充実させるため以下のような取り組みを行っている。

① 同窓会組織

教職に就いている本学の卒業生が、毎年8月下旬に同窓会を開催して情報交換をして交流を深めている。4年生の教員希望者にも参加を呼びかけている。

②工科高校見学会

普通科高校卒業生に工科高校（工業高校）に対する理解を深めさせ、工業の教員の希望者を増やすことを狙いとしている。毎年、夏季休業中の9月上旬に計画している。

③講演会

高校の教員に講演を依頼している。

〔優れた取組〕

8月上旬に催している教育実習報告会では、実習を終えた4年生の報告を3年生が聴き、質疑応答する機会としている。4年生の振り返りの場として、そして3年生の教職に対する意欲の向上の場として、とても効果的である。

〔改善の方向性・課題〕

教職教室主催の教員採用試験講座は、学生に教職に就くという意識を維持させるためにも効果的であり、拡充すればより成果が得られることも期待できるが、指導する教員の負担も大きいので、これらの調整が必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・資料2-2-1：教員採用試験講座（2023），大同大学教職教室
- ・資料2-2-2：2023 キャリアデザインノート，大同大学キャリアセンター
- ・資料2-2-3：キャリアサポート体制，大同大学キャリアセンター

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

1 キャップ制を踏まえ、建学の精神を具現化した教職課程

本学の教職課程は、建学の精神を具現化するために構成された教育課程に対して、キャップ制を運用し、その上で、教育職員免許法に従って編成されている。

- ①キャップ制・各学期に履修登録できる卒業するために修得すべき単位数は22単位を上限とする。
- ②「教育免許修得のための必修科目」として「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目の全てが、卒業するために修得すべき単位から構成されている。
- ③「教育の基礎的理解に関する科目等」として構成される科目の全体の約20%（取得免許種により異なる）が卒業するために修得すべき単位から構成されている。
- ④「教科及び教科の指導法に関する科目」として構成される科目の全体に対して、数学は約40%、工業・情報は約80～90%が卒業するために修得すべき単位から構成されている。

2 学科等の目的を踏まえながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラム

1年次

教職科目において、これまで受けてきた教育を振り返り、教育に関する基礎的・基本的な知識・考え方を修得する。

教科に関する専門科目において、高校までの既習事項を振り返るとともに、工業、情報、数学の基礎的事項について修得する。

2年次

教職科目において、教育課程、教育評価等、教育の基本的事項について修得する。

専門科目において、工業、情報、数学の発展的事項について修得する。

3年次

教職科目において、道徳・教育相談・特別支援等に関する理論と具体的な指導法を修得する。教育実習の意義・目的等を理解し心構えを育成する。中学校免許希望者は介護等体験を行い、個人の尊厳、社会連帯の大切さを実践を通して理解する。

専門科目において、工業、情報、数学の専門的事項について修得する。

4年次

教職科目において、生徒指導・特別活動に関する理論と具体的な指導法を修得する。教育実習と事後の振り返り、教職実践演習を通して、実践力を高め、教育現場に臨む姿勢を確立する。

各学科の卒業研究を通して、専門分野の理解を深めるとともに探求心を身につける。

3 教員育成指標を踏まえる

本学の教職課程は、文部科学省の「教職課程認定基準」に基づくコアカリキュラムに則しており、さらに、「愛知県教員育成指標」についても、教職課程の科目の中で指導する等の工夫をしている。

4 ICT機器を活用し情報活用能力を育てる教育

教職課程では、1年次より各科目において、授業での発表、学生間の意見の交換、課題の提出等でICT機器の活用を努めている。2年次の「教育方法論」及び「情報通信技術の活用（本学では2023年度2年生から）」の授業で実践的に取り組んでいる。さらに、ICT関連科目が必修である学科では、より専門的な学修をしている。

5 アクティブ・ラーニング等により課題発見・課題解決等の力量を育成

本学では、アクティブ・ラーニングを活用した科目が推奨され、それらの科目について

はシラバスにその旨を明記している。教職課程の科目でも積極的に導入し学習効果を高め、多様な学びを具現化し課題発見・課題解決等の力量を育成している。

6 シラバスについて

本学では、シラバスにより科目の学修内容や評価方法を学生に明示している。

【シラバスの内容】

- ・科目の概要
- ・学習到達目標
- ・授業の内容
- ・成績評価方法
- ・教科書 参考書
- ・履修要件
- ・履修上の注意事項
- ・連絡先
- ・オフィスアワー
- ・授業外学習時間

7 教育実習を行う上での履修要件

4年次に実施される「教育実習A」、「教育実習B」を履修するには条件が定められている。

- ① 3年次末に「卒業研究要件」を満たしている。
- ② 原則として、「教職に関する科目」のうち下表に掲げる科目を全て修得している。
 - 1年 教職論、教育原理、教育社会学
 - 2年 教育心理学、教育方法論、教育課程論
 - 3年 教育実習指導、教育相談の理論と方法、特別支援教育の理論と指導方法、総合的な学習の時間の指導法、道徳教育の理論と実践（中学免許希望者）、数学科教育法1（数学免許状）、数学科教育法2（数学免許状）、工業科教育法1（工業免許状）、工業科教育法2（工業免許状）、情報科教育法1（情報免許状）、情報科教育法2（情報免許状）

8 「履修カルテ」の活用

基準項目2-1-4で述べたように、「履修カルテ」等を用いてきめ細かな指導を行い「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

〔優れた取組〕

入学時より卒業まで、履修カルテを作成することを通して、それぞれの教科・科目の修得状況及び様々な教育活動の成果の確認を図っている。また、教職に向けて意識を高めることができている。

〔改善の方向性・課題〕

教育実習終了後、受入れ校からの意見の中で、教育実習生のICT活用能力の不足を指摘するものがある。基準項目1-2-3で述べたように、本学は恵まれたICT環境にあると考えるが、中学・高校の学校現場での実践的なICT活用に関して、さらに研究を深めていかなくてはならないと考えている。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・資料3-1-1：学生便覧，工学部，教職課程
- ・資料3-1-2：学生便覧，情報学部，教職課程
- ・資料3-1-3：4年間の学修に向けて，大同大学教職教室
- ・資料3-1-4：2023年度 教務関係要覧，大同大学
- ・資料3-1-5：シラバス公開システム

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

1 教員免許状の特性に応じた実践的指導力の育成

実践的指導力の育成のため、以下のような取り組みを行っている。

①「教育実習指導」の授業

教育実習の事前指導として中学・高校の現状と課題、実習生としての心がまえ、生徒への対応、学習指導案の作成等について指導している。

②教科教育法の授業

数学・工業・情報の各教科教育法の授業において、教科の内容の学習とともに、学習指導案の作成、模擬授業等に取り組んでいる。

③「道徳教育の理論と実践」の授業

中学校免許状希望者のため、道徳教育の理論を学ぶとともに、代表的な学習内容例を紹介し、学習指導案の作成、模擬授業等に取り組んでいる。

2 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）

教員になることに向けてのモチベーションと教育的力量の向上を図ることを目的に、積極的にボランティアやインターンシップに参加することを推奨している。ただし本学における学修への支障がない範囲で行うよう留意させている。活動に参加後は、介護等体験の報告書の作成、「履修カルテ」に記載するなどして振り返りの機会を設けている。

①介護等体験

例年、中学校の数学免許状取得のための「介護体験等実習」を、身体障害者授産施設及び知的障害者通所授産施設を中心に行っている。

②参加しているボランティア、インターンシップ等

- ・土曜学習プログラム（名古屋市教育委員会主催）
- ・東海市青空教室（東海市教育委員会主催、同市在住の小中学生の不登校生を対象）
- ・東浦町スクールパートナー（学生ボランティア）（東浦町教育委員会主催）

3 地域の子どもの実態や学校における教育実践等の最新の情報について

本学では以下のような取り組みを行い、地域の子どもの実態や学校における教育実践等の最新の情報について学生が理解する機会を設け、教職希望の学生のモチベーションを高めている。

①学内での教員採用試験説明会の開催

例年10～11月、愛知県及び名古屋市教育委員会の担当者による説明及び質疑応答の機会を設定している。

②学校見学

愛知県立工科高校の授業参観（9月）

③NPOあるいは民間のボランティア

ポトスの部屋（貧困家庭の中学生への学習支援）

4 教育委員会との組織的な連絡協力体制

本学では、以下のような取組を行い、教育委員会との組織的な連絡協力体制を構築している。

①教育委員会主催の教員採用試験説明会に参加

愛知県及び名古屋市教育委員会主催の教職課程担当者に対する説明会に出席して情報交換をしている。

②基準項目3-2-3の教員採用試験説明会の開催

③東海地区私立大学教職課程研究連絡懇話会に参加

例年、愛知・岐阜・三重の各県教育委員会の責任者を招き、シンポジウムや意見交換会が催され、そこで得られた知見や情報を教職課程運営に役立てている。

5 教育実習協力校との連携

本学では、教育実習期間は、教職課程委員会の委員が教育実習生の指導教員として担当学生の実習校に訪問し、授業参観及び情報交換を行っている。また、愛知県立工科高校に関しては、校長会を通じての情報交換及び協力関係も構築している。

〔優れた取組〕

本学には質朴な学生が多く、この基準項目に関わる様々な活動に積極的に参加し、見聞を広め自己の発展をすることにより、教員となる資質を高めている。

〔改善の方向性・課題〕

コロナ禍ということもあり、様々な企画に対して、学生への参加呼びかけがやや控え気味であったが、今後はさらに拡充していきたい。特に、高校との連携をより深めていきたいと考えている。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・資料3-2-1：教育実習指導（2023），大同大学教職教室
- ・資料3-2-2：学生便覧，工学部，教職課程
- ・資料3-2-3：学生便覧，情報学部，教職課程
- ・資料3-2-4：4年間の学修に向けて，大同大学教職教室

Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

本学には質朴な学生が多く、教職関連の各教科の学修、教育実習、履修カルテの作成等、4年間の学修に真摯かつ積極的に取り組み、見聞を広め自分自身に対する理解を深めた結果、教員となる道を進んでいる。このような学生たちのために、工学部・情報学部の両学部が全面的な協力体制の基で教職課程を支え、数学の免許状が取得できることも本学の大きな特色となっており、工業と数学、情報と数学の二つの免許状を取得する学生もいる。また、学内の各組織が機能的に働き、ICT環境の整備・推進は情報センター、FD活動は教育開発・学習支援センター、キャリア教育はキャリアセンターが中心となり担っている。教職課程のより一層の充実のためには、これらのセンターのさらなる支援を得て、全学的な指導体制を構築していかなければならない。例えば、本学では教職課程委員会が「教職センター」の役割を担っているが、今後、さらに実務的な効率化や学生指導の充実のためにも、「教職センター」への拡充を図る必要がある。

本学は産業界からの信頼がとて厚いゆえ、民間企業等への就職が好調であり、教職を目指す学生の確保が課題の一つである。そのため、各学部・学科の協力体制を維持・発展させながら教職課程の指導をしていかなければならない。また、教職課程の魅力を増すためにも、教員採用試験の対策指導の充実、実践的なICT活用能力の向上、高大連携の拡充を今後の課題として取り組んでいきたい。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

①教職課程自己点検評価の基本的な考え方と進め方の説明（2022年4月）

教職課程委員会で文部科学省の資料と全国私立大学教職課程協会の「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き等を資料として説明

②法令由来事項の点検とデータ等の扱いについて各学部・学科の意見を聴取（2022年6月）

③本学の「自己点検評価シート」の検討・作成（2022年12月）

④各学部・学科に自己点検の実施を依頼（2023年6月）

⑤各学部・学科が「自己点検評価シート」を提出（2023年12月）

⑥「自己点検の評価シート」の集約及び報告書の作成（2024年5月）

⑦「令和5年度 教職課程自己点検・評価報告書」の審議（2024年6月～7月）

⑧「令和5年度 教職課程自己点検・評価報告書」の公表（2024年7月）

V 現況基礎データ一覧

令和5年5月1日現在

法人名 学校法人 大同大学					
大学・学部名 大同大学 工学部、情報学部					
学科・コース名 機械工学科、機械システム工学科、電気電子工学科 建築学科：建築専攻、インテリアデザイン専攻、土木・環境専攻、 かおりデザイン専攻 情報システム学科、情報デザイン学科 総合情報学科：経営情報コース、スポーツ情報コース					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					8 2 5
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					7 1 9
③ ①のうち、教員免許状取得者数の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					2 6
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					1 4
④のうち、正規採用者数					3
④のうち、臨時的任用者数					1 1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6 7	2 7	6	0	0
相談員・支援員などの専門職員数					0

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・ 資料 1-1-1 : 学生便覧, 工学部, 教職課程
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/handbook/8_engineering2023.pdf
- ・ 資料 1-1-2 : 成績に関するガイド, GPA 制度
<https://www.daido-it.ac.jp/life/class/score/>
- ・ 資料 1-1-3 : 学生便覧, 情報学部, 教職課程
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/handbook/13_infomartion2023.pdf
- ・ 資料 1-1-4 : ATTENTION PLEASE 2023 pp.59
- ・ 資料 1-1-5 : 4年間の学修に向けて 大同大学教職教室
- ・ 資料 1-1-6 : 教職課程, 教職履修カルテ
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/kyousyokukatei/2020_chart.xlsx

- ・ 資料 1-2-1 : 情報センター ハンドブック 2023, 大同大学情報センター
- ・ 資料 1-2-2 : 教育開発・学習支援センター
<https://www.daido-it.ac.jp/center/lesson/>
- ・ 資料 1-2-3 : 学生による授業評価アンケート結果報告, 大同大学教育開発・学習支援センター
https://www.daido-it.ac.jp/center/lesson/survey_results/index.html
- ・ 資料 1-2-4 : 「授業批評」(教育開発・学習支援センター所報, 年に3回発行)
https://www.daido-it.ac.jp/center/lesson/teacher_research/
- ・ 資料 1-2-5 : 大同大学授業憲章 2001
https://www.daido-it.ac.jp/center/lesson/teacher_research/
- ・ 資料 1-2-6 : 教職課程に係る情報
<https://www.daido-it.ac.jp/life/class/kyousyokukatei/>
- ・ 資料 1-2-7 : 大同大学情報センター
<https://www.daido-it.ac.jp/center/information/>

- ・ 資料 2-1-1 : 4年間の学修に向けて, 大同大学教職教室
- ・ 資料 2-1-2 : キャンパスガイド 2023, 大同大学
- ・ 資料 2-1-3 : 教育実習指導(2023), 大同大学教職教室
- ・ 資料 2-1-4 : 教育実習の手引き, 大同大学教職課程

- ・ 資料 2-2-1 : 教員採用試験講座(2023), 大同大学教職教室
- ・ 資料 2-2-2 : 2023 キャリアデザインノート, 大同大学キャリアセンター
- ・ 資料 2-2-3 : キャリアサポート体制, 大同大学キャリアセンター
<https://www.daido-it.ac.jp/du/syusyoku/career/>

- ・ 資料 3-1-1 : 学生便覧, 工学部, 教職課程
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/handbook/8_engineering2023.pdf
- ・ 資料 3-1-2 : 学生便覧, 情報学部, 教職課程
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/handbook/13_infomartion2023.pdf
- ・ 資料 3-1-3 : 4年間の学修に向けて, 大同大学教職教室
- ・ 資料 3-1-4 : 2023年度 教務関係要覧, 大同大学
- ・ 資料 3-1-5 : シラバス公開システム
<https://www.daido-it.ac.jp/outline/disclosure/index.html#anc07>

- 資料 3 - 2 - 1 : 教育実習指導 (2023) , 大同大学教職教室
- 資料 3 - 2 - 2 : 学生便覧, 工学部, 教職課程
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/handbook/8_engineering2023.pdf
- 資料 3 - 2 - 3 : 学生便覧, 情報学部, 教職課程
https://www.daido-it.ac.jp/document/life/class/handbook/13_infomartion2023.pdf
- 資料 3 - 2 - 4 : 4年間の学修に向けて, 大同大学教職教室